

1. 行政の支援策をより使いやすくするために必要な改善点	
項 目	意 見 の 概 要
申請書類の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 申請からプレゼン報告まで大変時間がかかり、煩雑化している。簡素化が望まれる ・ 申請から決算報告までの書類の簡素化。事業内容、量により膨大な領収書等の取り扱いと保管が煩雑。 ・ 申請方法が判りにくく使い難い（パワーアップ事業など）。初めて申請する団体にとっては非常に難しい。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
資金助成	<p>【活動への一括補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スポーツクラブ21ひょうご」や「県民交流広場」のような、活動を広範にとらえる一括補助を増やして行くのが良いと思う。 ・ 類似した補助メニューをまとめ1件あたりの補助金額をあげてほしい。 ・ 各自治会が地域にあった活動ができるよう、一括補助への変更が望ましい。 <p style="text-align: right;">他多数</p> <p>【助成金の使途の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助対象経費の細かい制限の簡略化。あくまで目的達成度合で実績を見てほしい。 ・ 補助金などの使用範囲にもう少し幅をもたせてほしい。具体的な活動をしていく中では融通をつけることも必要になる。 ・ 領収証の日付と出金日は同日もしくは後日とすることをやめて前出金としてもよいことにしてほしい。立替金が多くなり担当者が困っている。 <p style="text-align: right;">他多数</p> <p>【継続した助成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりの手法、活動はそれぞれである。実情に応じた助成を細く長くして頂く方が有難い。 ・ 単年度の支援だけでなく継続して支援して頂けると有難い。 ・ 県民交流広場の活動補助を受けているが、期間が5年間であり、以後の原資の確保に不安を感じている。 <p>【迅速な交付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書類提出の後少しでも早く資金の振込みをお願いしたい。 <p>【助成要件の緩和】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口、活動できる年代の減少に合わせ、少人数での活動にも補助していただきたい。 ・ すでに活動している事業に対しての経費の助成が必要である。 ・ 新しい事業へのチャレンジは行政の支援がないと実行が大変にむずかしい。 ・ 当初の申請内容にしばられすぎ、その時々にあった活動ができなくなる。

活動に必要な情報の提供

【支援情報が一度に分かる工夫】

- ・ 補助への情報が各活動別にバラバラと有るので全分野一括で発信していただきたい。
- ・ どのような支援が受けられるのかがわからない。支援の種類が一覧になっているようなものが欲しい。
- ・ 自治会単位に対して、行政の“タテワリ”ではない、総合的情報発信をしてほしい。
- ・ チラシの多さにうんざり、情報の集約を求む。

【多様な広報メディアの活用】

- ・ 新聞等に、定期的に支援情報がわかるよう掲載する。
- ・ 支援情報が一般の人には伝えられていない。情報を県広報等で知らせてほしい。
- ・ 県のホームページで行政の支援情報が一括して見られるようにしてほしい。
- ・ 支援策・補助事業を一覧にして（担当課や連絡先のわかりやすい明記を含む）広報誌等で定期的に周知してほしい。
- ・ 支援情報は何度でも流してほしい。

【わかりやすい情報提供】

- ・ 支援情報がまだまだ分かりにくいので、情報提供方法を改善するべきだと思う。そうすることで、もっと多くの地域活動がうまれるのではないかな。
- ・ 募集要項や補助要件を詳しくわかりやすく記載してほしい。
- ・ 活動人数に限りがあるため、支援情報や申請書類は分かりやすくしてほしい。
- ・ 各種支援策が施行される中、行政の近くに情報源がない場合、単に通知文書では、内容の理解や運用が出来にくい為、地域と密接な立場にある職員からの情報提供や研修をお願いしたい。

【早めの情報提供】

- ・ チラシ、公報類の充実を図り、リアルタイムでの情報提供をお願いしたい。
- ・ 支援申請情報をもう少し早く連絡してほしい。
- ・ 特定の団体や協力が得られそうな団体に対してのみ行政から一方的に情報提供するのではなく、各団体が自由に選択出来るよう、常に最新できめ細やかな情報提供を望む。

【活動事例・マニュアル等の情報提供】

- ・ 行政が支援している団体の活動内容をホームページで公開してほしい。
- ・ 一番困っている人材育成のヒントなど具体例を多く情報提供する。
- ・ 進んだ取組の例を紹介してほしい。
- ・ 他地区での活動状況が容易に分かる（活動項目だけでなく、実際の活動が分かるように）工夫をお願いしたい。

<p>活動への呼びかけ、 P R</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に関する啓蒙、啓発を促すような情報・広報。 ・ 活動への参加を呼びかけるのに工夫が欲しい。 ・ 行政による市民への呼びかけ、事業内容のポスターの掲示。
<p>連携・交流の機会の 確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営ノウハウの共有のために、団体交流機会の提供を作っていたらと思う。 ・ アドバイザー、サポーター等まちづくりの応援団、行政、地元が充分に話し合う場、行動する機会をつくる。 ・ 行政と地域役員との活動支援策の話し合いなど会議の機会を密にすることが必要。行政の一方的な政策がほとんどで地域の代表以外は理解できないことが多い。
<p>サポート体制の充実</p>	<p>【アドバイス・指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いかに地域住民の理解、浸透を深める事ができるか、ノウハウをご伝授いただければ有難い。 ・ 申請書類などを書くノウハウを持ち合わせていない。県民局の担当者が現地に出向いて指導する体制が必要だと思う。 ・ アドバイザーや地域協働推進員の巡回訪問をもっとしてほしい。 <p>【相談窓口の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこに相談すれば良いか、窓口をわかりやすくしてP Rしてほしい。 ・ いつでも、誰でも、気軽に思ったこと、やりたいことを伝えられるような身近な窓口の設置（中間機関・人）
<p>継続した支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 申請事業（対象事業）の継続化（ノウハウを蓄積して、継続してこそより良い物が出来る） ・ 単年度のみでの支援でなく、スキルアップなどの継続支援があれば良いと思う。
<p>県と市（町）との 連携・役割分担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属する市町村にも同じような施策がある場合の差別化。 ・ 県と市町の連携で具体的に施策を分かるようにしてほしい。 ・ 県下各地における地域づくりの実情の幅広い周知方法など、市町行政も参加した情報の提供。 ・ 県は支援策の予算を市へ移してほしい。市に要望し県に要望し、地域は実に困っている。市が住民の為に行うのがベスト。 ・ 県と市と窓口を一元して頂ければ行政との手続きの簡素化が図られ、負担が軽くなる。

2. 地域づくり活動に取り組むなかで、県職員に望むこと

項目	意見の概要
活動に役立つ情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区の活動の内容や、色々な工夫のしかた等の情報を教えてほしい。 ・ 行政支援のきめこまかい情報を流して欲しい。 ・ 専門性と活用できるノウハウを持ち、情報提供してほしい。 ・ 利用する機会が少ないのでどのようなサポートが可能なのか具体例を教えてください。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
的確なアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりの役員の不得手な部分、特に法律、会計、各種申請、実施報告書等類公文書の扱い、作成について、さりげない助言と助力がほしい。 ・ 地方、地域の事情・実情を調べて適切なアドバイスを示してくれる職員を望む。 ・ トラブルが起こったり悩みができたりしたときの相談にもものっていただきたい。 ・ 問題点、改善策並びに新企画案等につき前向きな忌憚ない助言がいただければありがたい。 ・ 出来るだけ機会を作って、地域に出かけ、活動の実際を見て適切なアドバイスをお願いしたい。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
親切・丁寧な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素人であるボランティアの立場を考え、事業に合わせたサポートをして頂き、他とのコーディネートのアドバイスもして欲しい。 ・ 申請等書類手続きに慣れていない初心者に、わかりやすく説明する等の対応。 ・ 質問しやすい対応、姿勢。質問に即答してもらえる知識。
サポート体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に窓口を利用出来る雰囲気づくり。 ・ 各活動団体との対話。リーダーや役員の無報酬の活動の悩みをきく。 ・ じっくり相談できる職員体制が望まれる。 ・ 現在もよくサポートして頂いているが、県と地域の住民や代表が見える範囲で接する機会をより多く持つことが必要だと思う。 ・ 県の出先機関が遠方のため電話やメールの照会を増やしてほしい。 ・ サポートする県職員と地域団体とのコミュニケーションの場をもっと持ってほしい。
地域活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的に各事業の中へも入って活動してほしい。 ・ ボランティア活動への参画を自らが実践すること。自らの身をその場に置かない限り「参画と協働」の心が分からない。仕事としての関係性だけではいつまでも分からないままである。 ・ 積極的に住んでいる地域で、住民活動に参加してもらいたい。 ・ 現地視察に出向いてほしい。 ・ もっと担当の方が地域を歩き実情把握につとめてほしい。行革で県職員が遠くなった気がする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県職員の方が地域づくり活動に参加して、活動についてのノウハウを熟知することによってサポートできると思う。 ・ 書類上のチェックだけでなく、平素の活動にも参加をし、真に何が必要かを体験されるようお願いしたい。 ・ イベント等に参加していただいて交流つながりを深めてほしい。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
<p>県民目線での柔軟な姿勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書類作成上、書式様式にこだわりすぎて、当方の思いが伝わらない事がある。会計処理方法も独自の仕様があると思うので、寛容さも一部必要なのではないかと思う。 ・ それぞれに努力されている事を有難く思っているが、時にお役所的な感覚で対応される場合も見受けられる。地域住民と同じ目線で実態を捉えてご支援いただくようお願いしたい。 ・ 机の上で考えるだけではなく、地域に足を運んで、実情をよく把握した上で考えて欲しい。 ・ ルールとか規程どおりでなく、柔軟な取り扱いができること。初期段階では、県職員の誘導が必要。これができる職員を望む。 ・ 上層部からの伝達を私たちに伝えてくださることが四角四面すぎて忠実なのはいいが「情」が見られない。全部の職員というわけではないが。
<p>意識改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県職員が「自分のこと」だと思ふ当事者意識をもつこと。 ・ 信頼関係を大事にしてほしい。 ・ 管理しているという態度・発言の人もいた。誠心誠意努めている人もいた。もちろん、威圧的な態度の人でも仕事はされていたが。 ・ 県職員のみなさんが、現在何が社会に欠けているか、地域の人々が共に助け合い共に生きる社会はどうあるべきか、そのような意識をもって対応してほしい。
<p>知識・専門性をもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県職員が独自性を発揮して地域外との交流を深め、幅広い情報をもってほしい。 ・ 他団体とのコーディネートが出来るような幅広い知識を持って欲しい。 ・ 縦割りの知識ではない、総合的な知識、考え方をもってほしい。 ・ 接した限りでの県職員各位は皆真面目で優秀だが、反面コスト低減、事務効率に就いては関心が無い。申請や報告は地域当事者の善意によって作成されており無償の行為であるだけに、費用と効用の意識を否定されると奉仕団体の参画意欲に水をさしかねない。 ・ それぞれの地域の特性をよりよく理解して欲しい。 ・ 団体の内容、必要性をしっかりと知ってほしい。
<p>経費の助成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を継続するための財政基盤をどのようにして確保することが可能なのか、しっかりと見通しをもって取り組んでいけるように援助していただきたい。 ・ 県関係の助成金のある計画・予算が末端の活動する私達に下りてくるのが遅い。5月、遅くとも6月には決定してほしい。

<p>職員の異動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に密着するには最低5年は異動しないで地域に留まって相談を受けてほしい。 ・ 異動で職員が替わられても、次担当者への引継ぎを綿密に取って、スムーズに移行されたい。 ・ 短期間での異動が多く、活動団体との連携に支障をきたす場合があるので、改善してほしい。
<p>県と市（町）との連携・役割分担</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県と市と区の横の連携をスムーズにして欲しい。 ・ 県の立場から、市町村のことには立ち入れないという雰囲気、壁を感じるが、（問題によるが）市町村が消極的な場合でもより積極的な支援があれば嬉しい。 ・ 地域づくりはやはり身近な市町との関係も重要なので、市、町とのかけはしにもなってもらいたい。
<p>県職員と接する機会がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしても県職員との接触の機会が少ないので、もっと気楽に出合う機会があれば良いと思う。 ・ 市職員に対する希望はありますが県職員の方々と接する機会もない。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
<p>現状に満足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに、接した様に、垣根の無い仲間みたいな態度で良いと思う。 ・ 地域の現状をよく把握しておられる。今後も地域ごとにより細かく把握していただいて、ご助言などをしていただきたい。 ・ 当地域の担当者（県民交流広場事業における）県職員の方が、こまめに、アドバイスしていただき、親切、ていねいに答えていただいている。今後もこの状態を続けて行きたい。 <p style="text-align: right;">他多数</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県下に県民局を配置して取り組んでいただいるが、地域づくりは人づくりだと思う。人をつくる仕掛を充実させてほしい。 ・ 職員はしっかりと活動に対してはフォローしている、しかし毎年会員減少がある中での活動・イベントはきつい。田舎・都市との格差大である（交通機関など）。

3. 地域づくり活動についての自由意見

項 目	意 見 の 概 要
<p>情報発信・広報・PR</p>	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の支援があるが十分に周知されておらず情報が伝わっていない。 ・ それぞれの地域の良さ、特色など、他から見られたすばらしさを示してもらおうと大いに参考になる。 ・ 活動する団体の内容をもっと地域に紹介するべき。 ・ 各地方自治体（市町村）のNPO法人がお手伝いできる内容等がオープンになっていけばありがたい。 ・ 自主財源確保の取り組みの情報提供を願う。 ・ 草の根の活動をしている人の情報が入りにくい。 ・ 地域の資源（人的・物的）情報に協力してほしい。 <p>【広報・PR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の活動に対する広報活動の支援をお願いしたい。 ・ 活動しているのはごく限られた人数にすぎず、何とか大勢の住民にゆき渡る様に普及、PRが必要だと思う。 ・ 団塊の世代が動かないとよく聞くし、事実活動に入ろうとしない。地域と共に生きる楽しみを現職の時から身につけるようしないとだめ。 ・ 行政側からもっともっと地域活動を推進していかなければならない事をPRしてほしい（特に団塊の世代の掘り起こし）。 ・ 地域づくりの養成の場（機会）をつくり広く呼びかけて欲しい。 ・ 「地域づくり活動」についてどこでどのような支援をしているのか全く情報が伝わってきていない。各団体等の総会や研修会などの機会を捉えて詳細に説明していただいても良いのではないか。
<p>活動資金・助成のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりにはある程度の資金が必要となるので、県民交流広場の6年目以降についても減額はやむを得ないが、交付していただきたい。（今日、自治会退会者が増加し、各自治会の財政状況は益々厳しくなっていており、必要とする財政資金の見通しが立たない）。 ・ 行政の支援期限が切れた以後の維持費用は地域で負担すると、初めから決められている様な活動に持続性が期待できるだろうか。行政側が僅かでも支援を続けてこそ、地元民の理解や協力が根付くのではないか。 ・ 平成の大合併にともない助成金カットがあり、従来の活動が思うようにいかなかった。 ・ 以前にくらべると地域づくりはやりやすくなったが、行政などの財政難から資金集めに苦労する。 ・ 昔からの伝統行事について、多少なり無条件で補助をお願いしたい。現在以上の新しい行事を行う余裕がない。 ・ 観光地や特産物のある地域は地域づくり活動もしやすいと思われるが、これと言ったものが無い地域は自主財源づくりが大変である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアが無償であれば、活動に限界があり、継続することに難しさがある。せめて、活動メンバーに対する若干の経費（交通費、飲み物・弁当代等）の支援をお願いしたい。
<p>担い手づくり</p>	<p>【人材不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わりを好まない人が増えて、団体の活動が難しい。 ・ 家にいた方々（女性）が今はパート、仕事を持ち、地域活動がなかなかできにくくなり（出席者が少なくなり）なにかと活動しにくくなっている。 ・ 旧市街地に高層マンションの住民が多くなると、お付き合いの輪の中におさそいしても時間がかかるし入ってもらえない。 ・ 自治会、老人会、子供会とあるが、活動する人は同じ人が多く、若い人にもっと活動してほしい。 ・ 参加する人は年配の方が多い。若い人の力と理解がほしいので、中学校のトライやるウィークや高校のホームルーム活動の時間を少しだけ地域づくり活動に貸してほしい。 ・ 地域活動に参加する時間があり、興味のある人もたくさんいるようだが、負担感がなく、気軽に参加できる方法を提案・企画できればと思う。 ・ 活動に無関心な人への参加を促してほしい。 ・ 多くの活動が、決まった人達の参加に終わり、参加しない人は、参加しないままで、真の地域づくりの活動には、いたっていないように思う。 ・ 地域づくりは人づくり、多才な人材をいかに育て集めるかだと考えている。 ・ 県として、500 人委員会・ビジョン委員会の見直しをしてもらい、人づくりがメインの組織（委員会）をつくって欲しい。 ・ 兵庫県のランチとして折角県民局が配置されているのだから、もっと、市町の各地域で活動している人材の発掘と支援をしてもらいたい。 ・ 「地域づくり活動」を積極的にしようとする人が少なく、受け身の集団では進めにくい、この受け身の人が多い。 ・ 進めて行けば行くほど、世代全体を考えてやると言う事の難しさを痛感。良いアイデアがあればと思い悩む。 <p>【後継者育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者がいなくて困っている。今後地域活動を続けていく為のネックになる。 ・ 少子高齢化が進む地域では、後継者（地域づくりの担い手）の確保が大きい課題である。 ・ 若い人が参加できる組織づくり（婦人会、老人会の若返り）。 <p>【リーダーの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のリーダーが偏っており、権利と義務のバランスをとるしくみが不足している。 ・ 地域の人口減、高齢化により、役員のなり手が減少している。 ・ 地域リーダーは地域活動を実践する中で育ってくる。組織が育つには事務体制を確立することが大切で、事務局スタッフのリーダーこそが地域活動

	<p>を活性化させるカギである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーの高齢化により、若者へのバトンタッチの問題が顕在化している。 <p>【少子高齢化への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが少なくなり、かつスポーツ活動等で多忙なので、子どもと一緒に活動が難しい。 ・ どの地域も同じだと思うが、全体に高齢化が進み、各活動に参加する人が少なくなっている。 ・ 住民、世帯数が減少傾向にあっても地域の絆は強いが、地域の活性化に結びつける活動は実施しにくい状況である。 ・ 少子高齢化により地域づくり活動と地域を守り、維持する施策が必要。 ・ 高齢者の参加を後押しする施策をすすめて欲しい。 ・ 参加者の高齢化が進むなか世代交代が進まず、活動の進展が望めない、他団体との交流を通じて、推進していきたい。 ・ 元気な高齢者の方の知恵や知識をどんどんすくい上げてさらなる生きがいの場所を提供し、それを若い人達につなげて行きたい。
<p>コーディネート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民、行政、企業などと連携したり、協働することがよいと思うが、行政と住民は密接なつながりがあるが近隣の企業や経営団体などとのつながりはむずかしい。行政が橋わたし役をしてもらえればありがたい。 ・ 地域づくりは皆さんの調整が大切で、コーディネーターのような人が必要だと思う。
<p>交流・連携</p>	<p>【世代間交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域への帰属意識が年代（年齢）により異なるため、地域内での異世代交流を図ることが重要である。 ・ 高齢者から子どもたちまで多様な人々が関われる地域活動が必要だと思う。 ・ 団体のみならず汎く県民・市民との対話の場が必要。 <p>【団体同士の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の団体はそれぞれ楽しく活動しているが、団体同士の状況などは、会場も経費もなく、なかなか実行しにくい。 ・ 同じ様な活動をいろいろな団体がしている。効率が悪い。せめて行政が関係している事業について、共催や協働など効果の上がる方法をとればと思う。 ・ それぞれの団体が個々に行っていることが、一本化できたらより充実したものになると思う。 ・ 近隣の団体との連携、情報交換等が大切だと考えている。 ・ 関連団体の連携を促進するための交流会を開催してほしい。 <p>【行政・企業等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動団体と市町の連携が市町村合併によって弱くなっている。 ・ 住民、行政、企業が協働して、お互いの立場を理解しながら尊重しつつ地域づくりをしていければと思う（様々な立場、様々な人たちの声

	が活かせる方策を考えられると良い)。
助言・指導等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の持ち方、地域の盛り上げ方のノウハウの指導、リーダー育成の方法など指導いただきたい。 ・ 立ち上げるだけでなく、長いスパンでの指導と支援が必要である。 ・ まちづくりの専門家に気軽に相談にのれるような条件整備（講師料、資料等の支援）。
活動拠点の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動できる場を設定し、体験を通して、興味関心が湧く。できるだけ活動の場の提供をしてほしい。 ・ 高齢者（一人暮らし）に対する支援活動や、住みやすい地域環境づくり活動など、地域で話し合いができる場所があればと思う。
県（行政）の取り組みについて	<p>【県の事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県のイベントが多すぎる。同じような内容なのに各部横の連絡を取り、重複しないようにしてほしい。 ・ 県が事務局をしている団体からの活動依頼はすでに取り組んでいるものが多い。県の施策として行うのであればすでに取り組んでいる活動かどうか確認し、押し付けるような活動は見直してほしい。 ・ 新しい活動と古くから続く活動それぞれに対し支援をしてほしい。最近新しいものへの支援にウェイトがかたむいている気がする。 ・ 各事業が多過ぎる。もっと重点的に活動しては。 ・ 地域づくりをしているところには、十分に力を入れられていると思うが、目に入っていない地域については全く手が入っていないので、テコ入れをされていない地域にも力を入れてほしい。 ・ 県民局の活動施策について市町の理解、関心、同調度を高められたい。 ・ 県民交流広場事業と地域各団体が連携して、地域をPRして地域内外の人との交流、そして世代間交流の推進が今後必要不可欠と考える。 ・ 県民交流広場事業活動費を使わせていただいて、地域の団体間の交流ができ、地域の活性化につながった。できればこの事業を延長していただきたい。 ・ 地域の元気を出すには2～3年かかる。継続事業への対応策が必要。 ・ 「地域づくり活動」は、今後も絶対必要なもので、ぜひ長く事業をしてもらいたい。（地域づくり活動支援 パワーアップ 事業） <p>【県と市との連携・役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり活動そのものについて、県と市、地域のつながりはどうなっているのか、あまり見えない。取り組み強化を望む。 ・ 目的には差異がないのに、いろいろな団体が個別に活動している。行政の縦割りに基づくあり方に課題があるのではないかと感じている。 ・ 行政（県・市）窓口の一本化、単純化が望まれる。 ・ 国・県・市町で同じような事業が重複して企画されるなど、効率面で少し問題がある。

住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人が地域を考えることが大切。 ・ 地域づくり活動の課題は各住民が積極的に参画、計画する意欲の創生。 ・ 住民の積極的な活動への参加。
活動の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してゆく事に意義がある。 ・ 多くの人の意見を聞きながら、慌てず気長に続けることで、少しずつ地域のコミュニケーションが図られ、地域づくりになっているものと信じている。 ・ 地域づくりはボランティアや地域住民の力によるものが多いが、そればかりにまかせてしまっただけでは途中で挫折してしまうこともある。しっかり基盤を造って、活動を支えることが行政に課せられている。造るのは難しいが、つぶすのは簡単である。